（様式１）

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立落合第六小学校

■　学校の共通目標

授業づくり	重点	主体的な児童の活動の推進の場と機会の設定を行う。	中間評価	主体的な活動になるように魅力的な課題を設定するよう心掛けた。	最終評価	ＩＣＴ機器を駆使したり、発表形態を工夫したりしながら、児童が自ら考えたことを主体的に表現できるような授業が展開できた。
環境づくり		友達とのかかわりの中で児童が自ら考え、表現する指導の工夫を図る。		ICT 機器やミニホワイトボードを積極的に活用し、友達と関わりながら自分の考えを表現しやすい環境を整えた。		児童主体の活動ができるような場や機会を意図的に作ることができ、学習に関する関心や意欲は高まってきている。

■　学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課　題（10 月）	改善のための取組み（10 月）	最終評価（２月）
1	国語	・４月より平仮名を学習し、読み書きは終了している。 ・９～１０月に片仮名を学習し、現在漢字の学習は、10 月から始まっている。 ・短い文を進んで書く児童が多く、習った片仮名や漢字を、すぐに使っている。 ・図書の学習に興味を持ち、たくさんの絵本を読み、読み聞かせを楽しんでいる。	・平仮名、片仮名は、短い期間での学習で定着していない児童が多い。漢字についても、基本の「はね、はらい、とめ」「書き順」について十分に定着していない。 ・書くことに意欲をもって取り組む児童が多いが、習った平仮名・片仮名、漢字に自信をもって使おうとしているが、間違った使い方をしてしまうことが多い。	・語彙を増やすためのプリント練習や漢字ドリルを、繰り返し行い、正しい知識を身に付ける。 ・読んだ本の一言感想を読書カードに書くことで、書くことを習慣付ける。 ・三行以上書く日記を実施し、書けない児童には会話より言葉を引き出す支援を行う等楽しく取り組めるようにする。 ・全文を書き写すなど書く場面を設定し確実な定着を図る。	・漢字ノートやプリントに取り組ませたことで、語彙が増え日常に活用できるようになった。 ・それに加えて作文や読書カードに取り組ませたことで、ひらがな、カタカナ、漢字の使い方に慣れ、正しい文が書けるようになった。また書く楽しさにも気付き、意欲的な発言にもつながった。 ・音読の継続的な取り組みにより、読む力がついてきている。今後も継続し、語彙等言語事項領域の育成とともに、読む楽しさを体感させる。
	算数	・時計の読み方、かさや長さを比べる学習などは、体験させることで定着してきた。 ・繰り上がりのない足し算と繰り下がりのない引き算については理解している。 ・繰り上がりのある足し算と繰り下がりのある引き算は、理解に時間がかかっている。	・繰り上がりのある足し算や繰り下がりのある引き算の仕方を十分理解し、早く計算できるようにする必要がある。 ・単元を問わず、その答えになった理由がうまく説明できないことがある。	・プリント練習やカード練習を繰り返し、より素早く計算ができるように日々継続し、十分な定着を図る。 ・単元を問わず、算数で使う言葉や既習の事柄を使って、考え方をペアや全体で説明できるようにする。	・計算カードやすごろくゲームなど具体物を用いて楽しむことで、繰り上がり、繰り下がりの計算が正確に速くできるようになった。ほとんどの児童が指を使わずに計算できている。今後とも、具体物等を生かし、児童の興味・関心を高めさせるとともに、数学的な考え方の育成につなげる。 ・単元を問わず、答えを導いた理由の説明をさせたり、振り返りをさせたりすることで、「数学的な考え方」や理論的な説明ができるようになってきた。

学年	教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組み（４月）	中間評価・追加する取組み（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	学平仮名や片仮名の読み書きはほとんどの児童が習得している。一方で、文章の中での句読点に苦手意識をもつ児童が多い。 学文章を書くことに意欲的な児童が多い。より書く能力を高めていくため、語彙力を増やしたり、接続詞や指示語にも着目したりする意識を高める必要がある。	・片仮名を文章の中で使える力を付けることが課題である。 ・語彙力を高めることが課題である。語彙の量を増やすことで、文章に深まりをもたせる。また順序立てた文章を書くことが課題である。	・片仮名を使った文章を積極的に書き、片仮名を使うことに慣れていく。片仮名プリントを活用し、片仮名を使い、より多くの単語を使えるようにする。 ・読書活動を推進し読書量を確保し、語彙を増やしていく。また、授業の中で一つの単語を深めたり、辞書を積極的に活用したりして課題を改善していく。	・授業で指導をしたり、プリントを活用したりすることに加えて、読書量を増やすことで、単語を覚えて文章の中で活用できるようにする。書く活動を多く取り入れていく。 ・定期的に読書の時間を確保している。また、学校図書館支援員の方と連携をして様々なジャンルの本を紹介していく。辞書の活用ができていないので、授業などで積極的に活用していく。	・書く単元を中心に片仮名、漢字を積極的に活用する児童が増えてきている。また、文章を書く力も付いてきている。一方で、書くことに苦手意識をもつ児童とそうでない児童との個人差への対応が課題である。 ・語彙力が増え、工夫を凝らした文を書く児童が多く非常に意欲的である。また、自分で調べて学んでいるため定着度も高い。読書量もさらに増え、登場人物の気持ちを深く読み取る力にもつながっている。 ・新宿区定着度調査から「話す・聞くこと」の領域が低いことが分かった。国語科とともに、他教科でも問題解決型の取り組みを行い、発表活動を通じて力を伸ばしていく。
	算数	学計算は早い児童が多い。しかし、繰り上がりのある足し算や繰り下がりのある引き算に苦手意識をもつ児童もおり、手の操作を使って計算をする児童も見られる。 学文章問題を苦手とする児童がいる。足し算なのか引き算なのかを考える力が低い児童がいる。	・暗算で答えがすぐに答えを出すことが課題である。頭の中で１０の組成を作る速度を上げることが課題である。 ・足し算とはどのような計算か、引き算はどのような計算かをもう一度確認し、読み解く力を付ける。	・１０の組成を意識し、繰り上がり繰り下がりの苦手意識をなくしていく。また、１００マス計算などを取り入れて計算の速度を上げていく。 ・文章を読み込むことから始める。全体でカギとなる言葉に着目したり、線を引いたりして文章問題の理解を深める。 ・自力解決の時間ではどのように立式するのかを考えたり友達の意見を聞いて考え方を広めたりして、様々な考え方慣れさせる。	・定期的に授業や家庭学習で計算練習を取り入れている。１学期に比べると計算速度も上がってきている。２学期には、かけ算九九も覚えるので、繰り返しの計算練習を定期的に行っていく。 ・式の意味を説明したり、カギとなる言葉に着目したり学習を継続して行っている。また、演算決定の理由も説明できるように指導していく。 ・自力解決の時間を確保し、多様な考え方を理解できるようになってきている。今後も多様な意見が出るような、学習展開を工夫していく。	・かけ算を学習して計算に自信をもつ児童が増えた。１００マス計算で計算に意欲的に取り組む児童が増えた。 ・ヒントとなる言葉を発見したり、自分で問題を作ったりすることで解決方法の理解を深めることができた。一方で、なぜそのような解決方法になるのか、根本的な理解につながっていない児童への支援が課題である。 ・今後は、具体物を使ったり、問題解決型の学習を取り入れたりし、算数科への興味・関心を高めるとともに、「数学的な考え方」の育成につなげる。
3	国語	調「書くこと」の領域が、他の領域に比べて、課題がある。 学漢字の小テストでは、大方の児童が力を付けているが、課題のある児童もいる。 学語彙量の不足が見られるので、読書活動や言語事項を学ぶ活動を通して増やす必要がある。	・自分の思いや考えを書く経験不足しており、書く力が十分についていない。 ・既習内容の言語事項が十分身に付いていない、また、言語に対する興味・関心が不足している。	・例文指導や、スモールステップの指導を多く取り入れ、文章を書くことに慣れる。 ・国語辞典の使い方を十分に指導し、語彙を豊かにする。	・国語以外の教科でも、書く活動を多く取り入れてきたので、書くことへの抵抗感が少なくなってきた。さらに、例文指導、スモールステップの指導を引き続き行い、定着を図る。 ・漢字の繰り返し学習が定着し、言語に対する興味・関心も増してきた。	・「書くこと」では、教師作成の例文を用意し、書きたいという意欲をもたせた。また、ふり返りと交流を多く取り入れ、書き終わった文章から学び合えるようにした。国語以外の教科でも話し合いの場を多く取り入れ、スキルを高めた。 ・「話す・聞くこと」については、発表活動等により、着実に力を伸ばしている。今後は、書いてから発表するなどさらに、書く力を育成する。

	算数	調「数量や図形についての技能」と「数学的な考え方」の領域が、区の平均を下回っている。 調「活用」の項目も、区の平均よりも下回っている。 学プリントなど課題には、大方の児童は取り組めているが、課題が十分に捉えられず、学習がスムーズに進まない児童も見られる。自分の考えや友達の考えを説明し合う学習に慣れていない児童もいる。	・既習の内容が十分身に付いていないため、自信をもって学習する力に課題がある。 ・自らノートに学習内容を書くことが身に付いていないため、集団検討の際にもノートを活用して自信をもって発表することができない場面が見られる。 ・学習課題を読み取る力に課題が見られ、問題解決に主体的に取組むことに課題が見られる。	・基礎的・基本的な学習の繰り返し練習を行うとともに、家庭学習も含めて学習内容の確実な定着を目指していく。 ・ノートの書き方の指導を細やかにし、自分の考えを時間内で書けるようにしていく。友達の考え聞かせるようにし、お互いに高め合える授業を目指していく。 ・個に応じてきめ細やかに指導し、自信をもたせていく。	・休み時間や給食準備時間を利用して、個別の対応を行った。また、かけ算九九などの基礎的な四則計算や学習中の内容の反復を中心に家庭学習に取り組ませ、基本的な学習内容が定着してきている。 ・自分の考えを図や言葉、式を使ってノートに書き表すことができるようになってきた。また、自分の考えを友達に伝える技能も向上が見られる。	・計算単元では、技能の習熟のために計算練習に繰り返し取り組んだ。しかし、新宿区の学力調査の結果では計算領域の正答率が区の平均を下回っていた。引き続き、既習の計算技能の習熟を図っていく。 ・自分の考えを図や言葉、式を使ってノートに書き表すことを重点に指導を行ってきた。その結果、新宿区の学力調査の結果では、数学的な考え方が区の平均や目標値を上回っている。今後も、数学的な考え方が深まるよう授業の工夫をしていきたい。
4	国語	調「話す・聞く」の領域では、全国の平均を上回っており、大人数の前で自分の考えを述べたり、友達の考えの大切な点を聞き取ったりする普段からの学習が生かされている様子である。 調「基礎知識」「伝統的な言語文化」の項目では区の平均を１～２ポイント下回っており、既習の言語事項や漢字の未定着や、伝統的な文化へ触れる機会の少なさなどが原因と考えられる。 学多くの児童が熱心に学習に取り組み、音読や文章の読み取りでは力を発揮することができている。一方で、自分の考えを書いたり文章をまとめたりする学習に苦手意識をもつ児童も見られ、文章での表現スキルを高めていく必要がある。	・既習の漢字や言語事項での課題が見られるので、今後語彙を増やすとともに、今まで習った言葉に対する知識を確実に定着させていくことが課題である。 ・自分の考えを文章にしたり、自分の考えで文章の要点をまとめたりすることに苦手意識をもつ児童が多く見られる。文章を読む際に目的意識をもち、自分の経験や考えと照らし合わせて読む経験が足りないと考える。 ・伝統的な文化に触れる機会がまだ少ないため、日本古来の感じ方や文章表現などに興味がもてない児童が多い。今後、学年に応じた作品に触れさせる必要がある。	・漢字や言語事項に関しては家庭学習などで繰り返し学習を推奨し、自主的に学習する態度を育成するとともに基礎的・基本的な言語事項の確実な定着を図る。 ・文章に表現する際には目的や書くべき内容を児童が確実に把握できるようにし、書くべき内容を精選して取り組むことを心掛ける。また、個人差も大きいので、個々の児童に必要な表現スキルを指導し、全体のレベルアップを図る。 ・俳句や簡単な短歌などに触れる機会を意図的に取り入れ、日本古来の文学への興味・関心をもてるようにする。また。季節の感覚や風情などを感じられる声掛けを心掛ける。	・漢字や言語事項では繰り返し学習や家庭学習を奨励し、個々の児童への学習の定着を心がけた。そのため、多くの児童に学習意欲や基礎的・基本的な言語事項が定着しつつある。 ・「書く」学習では、書く目的や内容を単元の導入で明確にし、そのために必要な資料集めや構成などを考えられるようにした。目的意識をもって学習を進めたため、「何をどのように書くのか」を明確にして取り組める児童が増えてきた。 ・「話す・聞く」の学習でもスキル的な面を伸ばし、自分の考えを表現できるようになってきているが、今後は自信をもって表現させるための「聞く」姿勢をさらに伸ばす必要がある。	・漢字や言語事項では繰り返し学習を行い、定着を図ったので８０%以上の児童に身に付いている。一方、学期末などの復習テストなどでは点数を伸ばせない児童も見られ、引き続き既習の漢字には習熟が必要である。 ・自分の考えを「書く」「話す」ことに対しては多くの児童が抵抗なくできるようになってきている。また、スモールステップを踏んでの学習を行ったため、表現する内容や場面、相手などに応じて表現方法を工夫するなどのスキルも高まってきている。今後は、友達の考えを自分の考えに取り入れるスキルなどを伸ばしていく。
	算数	調いずれの領域も区の平均をわずかに下回っており、全体的な底上げが必要である。しかし、図形領域に関しては他の領域に比べると比較的理解ができている様子である。 調「数学的な考え方」や「活用」の領域が特に区の平均を大きく下回っており、論理的に思考して課題を把握して解決したり、学習内容を他の課題に活用したりすることに課題があると考えられる。 学学習には真剣に、真面目に取り組む様子が見られるが、課題がきちんと把握できていないための誤答や諦めが随所に見られる。また、分度器などの道具の使い方も未定着の面がある。	・計算などの基礎的・基本的な学習内容においての正確さに欠ける児童がやや多い。ドリル的な練習が十分足りておらず、複雑になれば間違いが増えている。 ・論理的に考えて解答にたどり着く思考が不十分である。また、課題を正確に把握しないで進めるために途中での間違いにも気付きにくく、ミスを誘発しやすい。 ・様々な解決策を考える経験が少ないので、多様な解決策を考えさせ、様々な考え方の中から合理的・普遍的な解決方法を粘り強く解決する力も同時に育てていけるように授業改善を図ることが課題である。	・基礎的・基本的な学習の繰り返し練習を呼びかけ、家庭学習も含めて学習内容の確実な定着を目指す。また個人差も見られるので個々に応じたきめ細やかな指導を行う。 ・課題把握を大切にし、「何を求めるのか。」「どのようにして考えればよいのか」を共通理解できるように工夫する。また、必要に応じて個別指導を行い、全体の底上げを図る。 ・様々な課題の解決方法に触れる機会を多く取り入れ、多様な考え方で課題を解決できる力の育成を図る。そのために話し合いや練り上げの場を設定し、対話的な活動や学習を通した意見交換などを重視する。	・基礎的な計算は、繰り返し学習や家庭学習の励行により多くの児童に定着している。一方、個人差が見られ、さらに個別指導やきめ細やかな指導を心掛ける必要がある。 ・文章問題などにおいても正確に題意を捉え、回答の仕方までを見通して解決に当たれる児童が増えてきている。今後は一つの問題に対して様々な解決方法を考え、数学的な考え方に対する意欲や多面的な考え方などの思考面をさらに伸ばす必要がある。そのため、一層対話的な授業を重視する。 ・コンパスや分度器などの学習器具の使用の正確さに課題があるため、個別指導などを通して習熟を図っていく。	・かけ算やわり算の筆算、少数の計算などは繰り返し指導や個別指導を徹底し、９０%以上の児童に定着している。今後はより早く、確実に計算ができるように、いっそう自主的に繰り返し練習に取り組むようにしていく。 ・問題の題意を考え、順を追って考えようとする態度は多くの児童に身に付いている。一方、既習の学習を生かせなかったり、複数の学習内容を同時に使えなかったりする面も見られる。指導方法を工夫するとともに、引き続き多くの問題に取り組んだり、フォローアップワークシートなどを活用し、スキルを伸ばす指導を継続する。 ・道具を正確に使うことは、まだ十分ではない。
5	国語	調「伝統的な言語文化と国語の特質の関する事項」と「言語についての知識・理解・技能」について区の平均を大きく上回っている。日頃の読み聞かせの取り組みや、図書館との連携で読書の機会を多く設けていることが結果につながったと考えられる。 調「話す・聞く」が区平均より下回っている。人前で話す経験や、お手本となるようなスピーチ等を見る機会が少ないことも要因として考えられる。併せて「活用」のポイントも伸びなかった。「学ぶ→自分で試す」という経験を積ませたい。 学新しいことを学ぶ意欲は高く、読書も好きなので言語を自然と言語を身に着けることができていると感じるが、人前で話すときの話型や言葉の選び方など、改めて指導をする必要があると感じる。	・自分の思いを伝えるために表現を工夫することの経験が不足している。文章を書いて考えをまとめ、それをみんなの前で話す機会を増やすこと、また筋道を立てて表現するコツ、真似をしたくなるような話し方・書き方を学ぶ学習を積み重ねていくことが課題である。 ・話を聞く際は、相手の意図を考えながら聞く必要がある。物語文や説明文などを深く読み取り、文章の中心となる部分をとらえていく力を伸ばしていくことが課題である。	・授業はもちろん、それ以外の場面でも人前で話をする機会を多く設定し、児童が慣れるようにする。さらに苦手意識をもたせないよう、まずは話型どおりに話をさせて、だんだんと工夫して話ができるようにする。 ・ICT 等のツールを活用し、自分の思いを様々な形で表現できる能力を伸ばしていけるよう、国語以外の教科でもプレゼンテーションソフトを用いて表現するような授業を進めていく。	・自分の思いをより豊かに伝えられるようにするため、振り返りの文章を書く機会を増やしている。辞書を活用し意味調べを日常的に取り組んでいる。 ・見方・考え方を深めていけるよう、思考ツールを活用した話し合いやまとめをすすめるようにする。 ・物語文等を通して人の気持ちを考えたり物事の本質を捉えたりすることで、自らの生き方について思いを巡らす資質能力を高めていく。	・登場人物の心情に触れたり、筆者の思いにせまったりする学習に力を入れた。文章の言葉にこだわり、様々な視点から理解を深めていこうとする姿勢がみられるようになっている。多様な意見を取り入れ、自らの考えを広げていこうとする素地が育ちつつある。 ・辞書での意味調べを継続してきたので、表現の場での語彙が豊かになってきている。自分から発信する際や人の意見を聞き入れる際に使う言葉に気を付けている児童が増えた。 ・新宿区の学力調査では「読む」力が区平均より低い。今後も継続して多くの文章に触れさせる機会を設けて、「読む」ことの力を伸ばしていく。
	算数	調全体的に区の平均と大きく差のない結果が出ている。その中でも「関心・意欲・態度」についてはポイントが高く、意欲はあるが結果につながっていないという実態が見て取れる。 調「数量や図形について」の領域がわずかに全国平均を下回った。目の前にないものを頭の中で思い描いて考えることが苦手な児童が多いと考えられる。 学授業では意欲的に考えたり、意見を言ったりする児童が多いが、いざ問題を解く場面になると、それまでの学びが生かされていない児童がいる。	・自ら考えること、友達の意見を参考にすること等の意欲はあっても、課題を解決したことで満足して、その次の発展や応用に対する意欲が高まらない。 ・物の数量や図形など、頭の中で具体的にイメージして考えることが苦手で、空間認識的な感覚が定着しておらず、作図や計測を間違え、正答までたどり着いていない。	・習熟度別指導の際、個別の指導が必要な児童に対しては、クラス分けの際に配慮し、より細かな指導ができるようにする。 ・授業の中で、実際の教具を扱ったり操作したりする活動を取り入れながら、イメージをもてるようにし、問題解決の時の手掛かりとなるようにする。 ・問題を解くための「慣れ」を伸ばすためにも、フォローアップワークシート等を活用し、多くの問題を解く機会を設ける。	・習熟度別指導の際、個別指導が必要な児童に対してはクラス分けの際に配慮し、既習内容の復習にも取り組んだり、スモールステップで学習を進めたりするなどの工夫をしている。 ・具体物の操作や、ICT 機器を活用し問題の題意を捉える一助としている。また、フォローアップワークシート等を活用し、様々な問題に触れさせている。その結果１０月までのワークテストの平均得点は８割を超えている。全国平均を下回っていた「図形領域」においても平均が８割を超えている。	・新宿区の学力調査では、小数×小数、小数÷小数の計算の数値が区平均より下回っている。単元の学習を終えても継続して取り組ませてきたが、今後も続けていく必要がある。 ・前年度の校内の結果と比べ、「基礎」の数値は上がったが、「活用」は下がった。どちらか一方に偏りが出ないよう、日々の授業の中で意図的に問題に取り組ませていくとともに、フォローアップワークシートなどを活用し力を伸ばす。 ・算数に対する意欲は低くないので、指導方法の工夫改善を行い、興味・関心を高める授業展開を行いながら、思考力を伸ばしていきたい。

６	国語	調全体的に区の平均より下回っている。特に「書く」領域は、全国の平均も下回っている。 調平成２８年度の標準スコアは２７年度の標準スコアを５ポイントも上回る結果が出た。平成２７年度は全国平均を大きく下回っていたため、学力の向上が見られた。 学作品の感想や筆者の考えに対する自分の考えなど、自分の考えを表現することがあまり得意ではない。	・自分の考えを表現することが全体的に苦手である。自信がもてないので、考えをまとめることや手を挙げて発表することが進んでできない傾向がある。 ・学力調査の結果から、解答形式が記述の正答率が全国平均よりも下回っている。また、自分の思いや考えを主体的に書くことにも課題が見られる。	・辞書を積極的に活用し、語彙を増やす。 ・感想を書くときも、感想の構成や具体的な項目を立て、児童が自分の考えを表現しやすいように学習環境を整える。また、感想を交流した後は、友達から得た新たな考えや自分の考えの変化などを書き足す時間を設けるようにする。	・辞書を活用した学習は継続中である。自発的に活用できるように常に机の周りに用意しておくよう促していく。 ・単元や行事の後、他教科でも書く学習を積極的に行ってきた。自分の考えを表現することが少しずつできるようになってきている。今後は、文章構成や改行など文章の書き方の基礎を押さえながら、さらに書く経験を増やしていく。	・目的意識を明確にしたスピーチにより、話すことへの自信や技能は高まっている。また、話したいことを項目に分け、整理するスキルも身に付いてきている。 ・小集団での話し合いにより、相手の発言を聞きながら思考することが多くの児童にできてきている。 ・「読む」力は着実についてきている。卒業までに多様な文章に触れながら、語彙や言語事項の習得とともに、国語科への興味・関心を高める。
	算数	調どの領域も区の平均を下回っている。特に「図形」の領域は全国の平均を下回っている。 調平成２８年度の標準スコアは２７年度の標準スコアを２．７ポイント上回る結果が出た。学習に対する意欲が高まってきた。 学「図形」の問題を解く時のひらめきはあるのだが、基礎的な力が身に付いておらず計算ミスをする場面が見られる。	・円の面積を求める問題では、公式を当てはめながら式を立てようと意欲的に学習に取り組んでいる。しかし、３．１４をかけたり、数字が細かく複雑になったりすると計算ミスをしてしまう児童が見られる。 ・正答率が６０％～７０％の児童が最も多い。区の平均に比べて「活用」が３ポイント下回っていることから、数学的な思考を伸ばしていくことが課題である。	・ICT 機器を活用し、図形などは視覚的に理解できるようにする。 ・毎時間の学習課題を明確にし、「この時間は何を学ぶのか」「何を身に付けるべきなのか」を児童が意識できるようにする。 ・学力調査でポイントの低かった領域についてはフォローアップワークシートを活用し、習熟を図る。	・生活に即した場面の学習課題を設定することで既習内容を活用し課題を解決する機会を設けた。 ・児童相互で教え合う姿が見られるようになり、学習が深まる様子が見られるようになっている。 ・「図形」領域では、フォローアップワークシートや練習プリントを活用し、習熟を図った。その結果、確認テストでは平均点が８割を超えている。 ・ICT 機器を活用することで、学習に意欲的に取り組めるようになった。	・児童相互考えを伝え合ったり、教え合ったりする姿が定着している。反面、基礎・基本や数学的思考力の個人差への対応が課題である。 ・新宿区の学力調査では図形領域が平均を下回っている。引き続きフォローアップワークシートなどを活用し、卒業までに定着を図っていく。
音楽	・全学年、歌唱も楽器の演奏についても、意欲的に取り組もうとする様子が見られる。 ・演奏することは好きだが、曲想に合った表現をするための技能はまだ不十分である。		・楽しく音楽とかかわる活動を通して、声の出し方や楽器の演奏の仕方等、音楽の基盤となる能力を経験的に身に付けるようにする。 ・小グループでの活動や演奏発表の場を設定し、一人一人が音楽について意見をもち、より良い演奏を目指せるようにする。	・演奏するために必要な技能を学年に応じて丁寧に指導する。 ・小グループでの活動を通して、友達と音を合わせる楽しさを十分に味わわせ、友達との関わりを大切にしながら、音楽について意見を交わし、自分の演奏に生かせるようにする。	・全学年、木琴・鉄琴・打楽器を使った合奏の内容を取り入れ、学年に応じた奏法を指導する。 ・器楽については、一斉指導の後ペアで聴き合ったり、小グループで教え合ったりする活動を取り入れることで、児童同士が関わりながら学習することに重点を置く。	・音楽会に向けての取り組みを通して、みんなで演奏することの楽しさを十分に味わうことができた。児童一人一人が、自分のねらいを達成したことで自信をもつことにつながった。 ・児童一人一人がめあてをもって練習し、友達と教え合いながら活動する姿が見られ、主体的に取り組める児童が育ってきた。
図工	・新しい取組みにも興味を示し、表現活動に積極的に関わることができる。 ・よりよいものを作りたいという気持ちは強い反面、つまずきがあって表現に自信がないと意欲を無くしてしまう児童もいる。		・発想や構想に時間がかかる。 ・製作に時間がかかり十分に鑑賞の時間がとれない。 ・作品を通して対話することで、自他の作品のよさに気付かせ表現に自信をもたせる。	・発想や構想を豊かにするための作品鑑賞や、創造的な技法を経験させる。 ・製作の途中でも短時間鑑賞の時間をとり、自他の作品のよさを言葉にして、共有する。	・言語活動からのイメージの拡大を図るために導入で時間をとり、共通イメージからそれぞれが自分の発想を広げるようにする。 ・タブレットで作品をとって途中で鑑賞し、自他の作品の工夫を発表させる。客観的に自分の作品を見る機会につなげる。	・導入の段階に時間をとり、参考作品や言語活動を通して各々のイメージが膨らむようにした。素材とかかわる時間を多くとったことも有効であった。 ・友達の作品の良さは共有したが真似をすることに抵抗がある様子もみられた。よさを取り入れ、さらによいものを作り上げていくよう場に応じた支援をし、声かけをした。発想が広がらない児童には有効であった。
特支						

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況　　※分量は 2 ページ以上となってもよい。